

建築主：ソニー生命保険株式会社 於久田太郎  
 設計者：株式会社プランテック総合計画事務所 大江 匡  
 オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 柴田育秀  
 株式会社アルファ構造デザイン事務所 海野敏夫  
 施工者：清水建設株式会社 水田保雄



建物外観（撮影：小林浩志）

### 建築概要

建設地：東京都港区港南1丁目7-1  
 建築主：ソニー生命保険株式会社  
 設計：建築 株式会社プランテック総合計画事務所  
 構造 オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド  
 株式会社アルファ構造デザイン事務所  
 施工：清水建設株式会社 ほか  
 竣工：2006年10月  
 建築面積：8,995.45㎡ 延床面積：162,887.57㎡  
 階数：地上20階、地下2階、塔屋2階  
 構造種別：地上鉄骨造、地下鉄骨鉄筋コンクリート造

### 選評

地上20階、地下2階の本オフィスビルはB1F床に免震層を設け、外殻の斜め格子フレームと組み合わせることを構造的選択として計画している。

外殻に主たる耐震要素を配することで1フロア70m×100mをロングスパンラーメン構造（柱スパン15m×25.5m）とし、フレキシブルで透明性にとんだオフィス空間を実現している。

フロア構成の巧みさとともに免震+外殻斜めフレームが生み出しているのは軽やかなファサードのデザインだといえる。3層一構成の構造システムと免震効果によりきわめてスレンダーなダブルスキンファサードカーテンウォールのデザインが可能となっている。同時に環境技術の面から自然換気が3層一構成で実現されている。さらに建築計画の面で特筆すべきは北側ファサードに沿ったエスカレーターによる移動エリアで開放感のあるコミュニケーションスペースとして快適なオフィス環境をつくり出していることだろう。

70m×100mという大きなフロアヴォリュームに明るさと透明性を与えているのは免震と外殻斜めフレームという構造的選択が生んだ平面計画、ファサードデザインによっているといえる。免震構造の利用により高層、超高層オフィスビルの新たなデザインの方角を提示している点、大きく評価でき、免震構造協会賞にふさわしい作品と考える。

（岡部憲明）

### 免震化した経緯及び企画設計等

本建物は、変化するビジネスに迅速に対応する新しいビジネス拠点として計画されたものであり、求められたのは、「シンプルで機能的、かつ安全安心なビル」、「環境に十分配慮されたサスティナブルなビル」、「社員のアメニティを重視し、業務を円滑に行える機能を効率的に内包したビル」である。

それらを実現すべく、「外殻を剛強な斜め格子フレーム、内部をロングスパンラーメン構造とし、免震構造と組み合わせる」ことによって、①フレキシブルな大空間、②透明かつ環境に配慮したファサード、③震災時および震災後の継続利用（72hのバックアップ体制）、の実現を目指した。

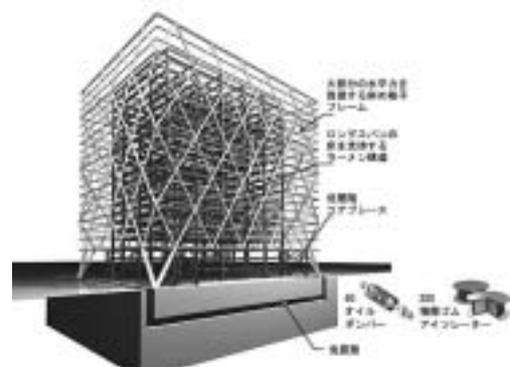
### 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

このシステムの採用によって、関東地震の再来を想定した大地震動に対しても、基準フロアで約100galの加速度、1/500以下の層間変形角を実現し、大地震時における無被害とその後の継続利用を確実なものとし、かつコアに阻害されないフレキシブルな大空間を創出している。

また、構造上も環境制御上も最適な3層モジュールのファサードシステムを採用し、免震効果を最大限に生かすことで、外殻構成部材の見付幅を500mm、カーテンウォールのマリオン見付幅を55mmとするなど、ディテールの最適化を図り、透明感のある快適なオフィス空間と環境負荷低減の両立を実現した。



基準階オフィス内観（撮影：小林浩志）



構造概要図